

授業科目	事例研究（観光倫理） Case Study (Tourism Ethics)			担当教員	木村 勝彦		
展開方法	演習	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2 年／後期	必修・選択	選択
授業のねらい							
観光倫理に関する具体的な事例研究として、人間の倫理的判断や文化的慣習に決定的な影響を与える宗教の問題に着目し、宗教的聖地と観光との関係について考察する。特に宗教ツーリズムやダークツーリズムと呼ばれる潮流に注目しながら、長崎県のカトリック教会と殉教地、さらには長崎の原爆遺構を事例として取り上げ、聖地の観光活用や世界遺産化運動のうちに現出してくる倫理的問題について検討する。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	宗教的聖地の観光活用の倫理的問題性について討議することができる。			授業態度・参加 課題レポート		20% 10%	
思考・判断	観光の倫理規範と宗教的価値との対立について考え、課題解決のための論点を指摘することができる。			授業態度・参加 定期試験		10% 10%	
技能・表現	宗教的聖地をめぐる観光倫理の問題フレームを、自らの研究テーマに関連づけて使用することができる。			授業態度・参加 課題レポート		10% 10%	
知識・理解	宗教的聖地と観光倫理の関係に関する現代の主要な研究業績や潮流について説明することができる。			定期試験 課題レポート		20% 10%	
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
評価は定期試験 30%、課題レポート 30%、授業態度・参加 40%の配分で行う。定期試験は授業テーマと自らの研究テーマを関連づけたレポートの提出により行うものとして、主要な先行研究の問題提起を的確に理解し、観光倫理のさまざまな概念と視点を十分に用いることができているかを評価基準とする。課題レポートでは自らが報告担当する具体的事例の問題点を十分に理解し、幅広い文献・資料にも意欲的に当たって、内容豊富で問題提起的なレジュメを作成することができるかによって評価する。授業態度・参加については、発表をめぐる受講生同士の討論や教師からの発問に対する応答の内容を評価基準とする。							
授業の概要							
この授業では、まず長崎県内のカトリック教会と殉教地、長崎の原爆遺構を事例として取り上げ、聖地や人の死に関係する場所が有する宗教的意味と、それらを観光資源として活用しようとする動向との関係に、どのような観光倫理の問題が現出しているかを検討する。その上で、受講生各自が選択した具体的な日本国内の宗教的聖地の事例について報告を行い、それについての討論によって理解を深める。							
教科書・参考書							
教科書：David F. Fennell, <i>Tourism Ethics</i> , 2006. 参考書：Myra Shackley, <i>Managing Sacred Sites: Service Provision and Visitor Experience</i> , 2001. John Lennon and Malcolm Foley, <i>Dark Tourism</i> , 2010.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この事例研究は、「観光倫理特講」とあわせて受講することが望ましい。また、必要に応じて長崎県内のカトリック教会や殉教地、さらには長崎市の原爆遺構に関する実地調査を行うほか、文献の講読・まとめなどの作業が課されるので、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。観光研究にとって基本的な問題である観光そのものについての倫理的考察を、具体的な事例を通して深めて行くことを期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	宗教的聖地とはどのような場所かを概説して、観光倫理の事例研究への導入を行う。	宗教的聖地に関する整理・復習と、Fennell のテキスト予習
2	観光倫理と宗教的価値	Fennell のテキストを検討しながら、観光倫理と宗教的価値の関係を、調和・矛盾・対立という位相で概説し、視点を明確にする。	宗教的価値に関する整理・復習と、Fennell のテキスト予習
3	宗教的聖地における観光と倫理的態度	Fennell のテキストを検討しながら、宗教的聖地における観光者の倫理的態度はどのようなものかについて考察する。	宗教的聖地における倫理的態度の整理・復習と、長崎市内の聖地に関する発表の準備
4	長崎のカトリック教会と聖地の研究(1)	長崎のカトリック教会と殉教地をめぐる観光倫理の問題について、長崎市内(外海を含む)の事例を取り上げて考察する。	長崎市内の事例に関する整理・復習と、平戸・生月の聖地に関する発表の準備
5	長崎のカトリック教会と聖地の研究(2)	長崎のカトリック教会と殉教地をめぐる観光倫理の問題について、平戸・生月の事例を取り上げて考察する。	平戸・生月の事例に関する整理・復習と、五島の聖地に関する発表の準備
6	長崎のカトリック教会と聖地の研究(3)	長崎のカトリック教会と殉教地をめぐる観光倫理の問題について、五島の事例を取り上げて考察する。	五島の事例に関する整理・復習と、長崎の原爆遺構に関する発表の準備
7	長崎の原爆遺構の研究(1)	長崎の原爆遺構を取り上げ、人の大量かつ悲惨な死に関係する場所を観光対象とすることの倫理的意味について考察する。	長崎の原爆遺構に関する整理・復習と、Lennon & Foley のテキスト予習
8	長崎の原爆遺構の研究(2)	長崎の原爆遺構を取り上げ、人の死に関係する場所を観光対象とするダークツーリズムという観光のあり方について倫理的問題を考察する。	ダークツーリズムに関する整理・復習と、巡礼に関する発表の準備
9	聖地巡礼の研究	中間的なまとめとして、聖地巡礼と観光の相違を観光倫理と結びつけて考察する。	巡礼に関する整理・復習と、Shackley のテキスト予習
10	聖地の管理運営に関する考察	Shackley の論考を検討しながら、観光との関係における聖地の管理運営について考察する。	Shackley の論考の整理・復習と、「富士山」発表の準備
11	日本の聖地と観光に関する研究(1)	聖地としての「富士山」について発表報告を行い、観光倫理の問題点について討論する。	「富士山」についての整理・復習と、「御嶽」発表の準備
12	日本の聖地と観光に関する研究(2)	聖地としての「御嶽」について発表報告を行い、観光倫理の問題点について討論する。	「御嶽」についての整理・復習と、「知覧」発表の準備
13	日本の聖地と観光に関する研究(3)	聖地としての「知覧」について発表報告を行い、観光倫理の問題点について討論する。	「知覧」についての整理・復習と、
14	日本の聖地と観光に関する研究(4)	聖地としての「靖国神社」について発表報告を行い、観光倫理の問題点について討論する。	「靖国神社」についての整理・復習と、Fennell の予習
15	まとめ	Fennell の論考の検討を通して、宗教的聖地に関わる観光倫理について総括的に考察する。	授業全体についての整理・復習